

教材教具および題材	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
<p style="text-align: center;">しゃぼんだま</p> <p style="text-align: center;">～しゃぼんだまでえがこう～</p>	小	グループ学習 高学年ペンギン (図画工作)	黒川大輔

<ねらい>

- ・息を吹いてしゃぼん玉を吹く。
- ・しゃぼん玉を追視する。

<内容（作成方法・使用方法・工夫点など）>

(1) 絵本『しゃぼんだまぷわん』

- ・絵本に注目できるように拡大コピーした。
- ・しゃぼん玉を吹くときに教師が息を実際に吹き、絵本に興味を持てるようにした。

(2) しゃぼん玉を吹こう

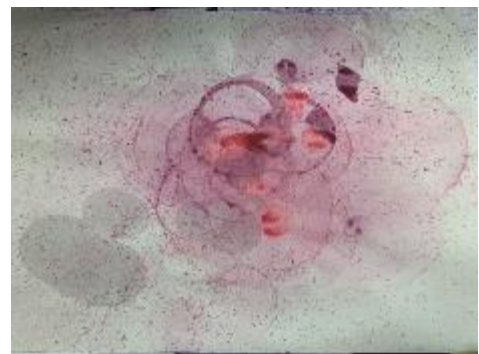
- ・実際に吹く。

(3) 色のついたしゃぼん玉を吹こう

- ・学期始めは画用紙に向かって吹いていたが、途中から障子紙に吹くことにした。
- ・色が濃くなるようにたっぷり絵の具をしゃぼん玉液に入れた。
- ・口にしゃぼん吹きをくわえることの難しい児童は口に付けずに息を吹くだけの物やボタンを押すと動く電動の物を使用した。

<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

- ・液が手に着くことが多く、気になる児童の為に着いてもすぐ拭けるように濡れタオルを用意しておき、気持ちを切れさせないように努力した。
- ・どの児童もしゃぼん玉に興味を持ち、たくさん吹くことができた。色を付けたことでより追視がしやすくなり、実際に触ろうと手を伸ばす児童もいた。
- ・障子紙にしたことで、しゃぼん玉が割れたときに画用紙よりきれいに描くことができた。
- ・いろいろな道具を準備していたので口が付けられない児童にも対応することができた。
- ・長机2つの机上に目一杯広げた。座った姿勢では広範囲に吹くことが難しかったので立位で行った。
- ・絵の具をたっぷり入れたことにより割れたときに色が付きわかりやすかった。



<その他（材料、費用、購入先等）>

- ・しゃぼん玉液
- ・絵の具（水彩画）
- ・障子紙
- ・吹く道具